

---

# BOOK KEEPING

まみ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

BOOK KEEPING

### 【Nコード】

N5236L

### 【作者名】

まみ

### 【あらすじ】

東京湾に浮かぶ、いまだ人類に知られていない島があった。その島には、老若男女全員、超豊満なバストを持った特殊な人種が住んでいた。この人種には、ある伝統がある。それは、毎年一人、日本列島から一人の男性を誘拐してきて、もしその男性が、この島にいる5大帝王の出題する『簿記』の問題に答えられれば、一年間、この島に住む全員のバストをモミ放題の褒美を与えるというもの。

僕、桐島順平は、女性の体に興味津々の18歳。あるとき、見たこともないようなデカおっぱいをした男達に連れ去られて――。

## 序章『開始仕訳は突然に』1

桜舞う季節。春です。僕、桐島順平は、今日からとうとう高校三年生になりました。僕の通う高校は、県内でも有数の進学校であり、頭の良い奴らがごろごろ居やがります。僕が・・・僕が、一番になりたいのに！！そう、僕は、毎日、寝る間も惜しんで、勉強三昧なのです。

え？なぜかって？決まっているでしょう！！そう・・・女の子に、も、も、モテたいからなのです！！僕は、女の子にきゃーきゃー言われたいのです！女性のみなさん、僕がなんだか下心ありありの男に見えるかもしれませんが、断じて違います！男というのは、そういう生き物なのです！男は、女の子にきゃーきゃー言われるためなら、どんなことだってするのです！そう、こんなふうに！

「あ、桐島くん、おはよう！今日もクールだねえ」

「おはようございます、山本さん。山本さんも、今日も素敵ですよ」  
「やあだ、桐島くんったら、嬉しいこといってくれちゃって☆ありがと！」

そう、僕は、女の子にモテるためなら、クールで爽やかな印象だっ、作ってしまったのです！こんな僕だから、なんと生徒会長まで務めちゃってる感じです。己の内面に潜んでいる下心という名のマグマが、今にも吹き出さんとするのを必死に押さえ、僕は、今日も笑顔で登校です！

そんな僕の唯一の楽しみ。それが、今この瞬間に訪れようとしています！

「きゃー、今日も風強いよー！」

「てか、スカート押さえてないとめくれちゃう、もう、やんなっちゃう！」

ふふふ、女性の諸君、やんなっちゃう、だって??ち、ち、ち。

違うだろ?そこは、「きゃー、今日も風強いよー、スカートめくられて桐島くんにパンツ、見てもらえて嬉しいー!」じゃ、ないのか?ふふ、可愛いベイビー達。僕にパンツを見られるのが、そんなに嬉しいのかい?だったら、毎日でも見てあげようじゃないですか!!!!

・・・僕が、春一番からの素敵な贈り物を堪能していると、ふいにあたりが騒然とし始めました。

「ん?なんだ?」

## 序章『開始仕訳は突然に』2

僕も、みんなと同じように、立ち止まります。すると、どこからともなく、奇怪なかけ声と大勢の足音が聞こえてきました。それは、どうやら、こっちに向かってくるようなのです！

「「ぱい！ぱい！ぱい！」」

「ぱい」という奇妙なかけ声が、どんどん大きくなってきます！僕の高校に向かっているのでしょうか？今日は、何かのお祭りでもあるのでしょうか？しかし、長年この町に住んでいる僕には、「ぱい」というかけ声と共に御神輿をかつぐお祭りなんて、全く存じておりません。だとしたら、一体・・・

「「ぱい！ぱい！ぱい！」」

奇妙な集団が、いまだ遠くにいながらも、ついに僕の視界に入ってきました。声を聞く限り、どうやら、全員男のようです。それにしても、全員、裸のように見えます。裸に、ふんどし・・・？やっぱり、お祭りなのでしょうか？

すると、僕の近くに立っていた女の子が、急に顔を手で覆い隠して、叫びました。

「きゃー！あの人達、男なのに、巨乳よー！」

なんだって？男なのに、巨乳？僕の周りの野郎共が、ざわざわし始めます。僕も、冷静さを装いながらも、内心ではむくむくと興味が沸いてきていました。きよ、巨乳？男なのについてというのが、理解

不能だが……。巨乳？チチが、でかいってことか？是非、拝見してみたいものだ！！

そんなことを考えているうちに、裸で巨乳変人集団が、僕の目の前まで来ていました。どうやら、こいつら、足が相当速いようです！！そして、なぜか、僕の目の前でいきなり立ち止まったのです！

なんなんだ、この光景は！顔は加齢臭ただようただのオヤジと言っても過言ではない程の男性の集団。それに、下半身は、白のふんどしで統一されています。足下は、見たこともないようなデザインのスーツ。非常に走りやすそうな代物です。そして、上半身は、裸で……。なんと……

全員、巨乳！！！！約10名ほどのむさい集団は、男でありながらも、全員、豊満なバストの持ち主だったのです！

透き通るような、白い肌。針でつついたら、ぱちんとはじけてしまいそうなほど、膨れあがったおっぱい。顔の部分を手で隠せば、きつと男性ならば誰もが吸い付きたくなってしまおうでしょう！

ぼくは、唾をぐくりと飲み込みました。普段、学校近辺では決して見せない、僕の燃え上がる性欲も、この光景を前にして、押さえきれなくなっていました。どうか、どうか、一瞬でもいいから、僕にさわらせて！

### 序章『開始仕訳は突然に』 3

僕が思わず先頭に立っていた男のち、ち、乳首にゆ、指を触れさせようとしたとき、その男が突然僕の腕をつかんで、まるでぞうきんのように絞りました！！！！

「いたいいたいいたいいたい！！！！ごめんなさい！」

僕は必死で謝ります！考えてみたら、初めて触るバストは、こんなオヤジの顔をした奴のじゃなくって、少なくとも女性のがいいですよ。

すると、謎の巨乳オヤジ集団の先頭の中で、一番リーダー格っぽい奴が、大声で話し始めました。

「見つけたゾ。やはりこいつが、ワレワレが探していタ、男で間違いないナイ。ワレワレは、日本デ最モスケベイな男を搜していたノダ。皆ノ者、こいつヲワレワレの島に連れテ行くノダ！」

「え？ちよ、ちよっと、もう少し声を小さくしてくれませんか・・・？なんだか、僕の今まで積み上げてきたイメージが崩れて行きそうなので・・・」

ちらっと周りを見ると、僕とその変な集団を見て、学校の生徒達がなにやらひそひそ話しているのです！

「ねえ、聞いた？生徒会長の桐島先輩、日本で一番スケベらしいよ？」

「えー！さわやかなイメージだったのに！そんな正体隠してたんだ・・・シヨック・・・」





## 序章『開始仕訳は突然に』4

ふいに訪れた、沈黙の時間。すがすがしい春の朝の学校前には、僕と、そして、むさい変態巨乳集団しかいません。・・・そうです、登校中の学校の生徒達は、僕を避けるようにして、走って学校に行ってしまったのです！！こいつらのせいで！こいつらのせいで！

「なんなんですかあなたたち！僕の今まで築き上げてきた賢くてまじめで爽やかなイメージが台無しだ！！どうしてくれるんですか！僕の、僕のモテモテ人生が！！」

すると、巨乳集団のリーダー格のオヤジが（口髭を生やしたダンディーなオヤジです）、僕の肩をがっちりとつかみました。非常に痛いです！！

「ワレワレハ、日本海に浮かんでイル、ブックキーピング島に住んでイル、ビックパイ民族でアル。ワレワレの民族にハ、ある1つノ大変重要ナ問題を抱えてイルノダ。その問題の解決のタメニ、ワレワレニハ、日本で最もスケベイな男の力が必要ナノダ。・・・協力、してくれルカ？」

「嫌です」

僕は即答しました。こんな意味不明な奴らに構っている暇はないのです。早く、早く学校に行って、こいつらのせいでガラガラと崩れた僕のイメージを元に戻さなくては！！！！

「それでは、僕はこれで。あと、僕が日本で一番スケベだっておっしゃっていただけれど、それは、どんなデータに基づいてのこと

ですか？はは、僕はね、今まで一度も卑猥な本や映像を見たことがないんです。僕は、そんなことに興味はないんですよ。誰かと、人間違いしているのではないですか？それでは、急いでのので。失礼します」

僕は、颯爽と立ち去ります。どうです？ば、僕は、こんなに爽やかで好青年的な発言も、なんなくできる、素敵な男性なのです。こんな感じで、登校すれば、僕のイメージだってすっかり元通りなはず。そして、僕の将来に待っているのは、明るいモテ男人生！！両脇には美人が寝そべっていて、僕はタバコを吸いながら、その、ち、乳を、揉んでいるという情景が目には浮かびます。・・・お気づきでしょうが、さっきこのムサイ男集団に投げかけた僕の爽やかな発言は、全くの嘘です。僕の部屋には、大量の、卑猥な物が！！僕が汗水たらしてバイトして貯めたお金で買った、選りすぐりの本や雑誌、DVD等が、所狭しと並べてあるのです！しかし、そんなこと、誰にもばれていません。幸いなことに、僕は一人暮らし。それに、僕の部屋に友達を呼んだことはありません。だって、僕のコレクション達が見られたら、僕がものすごく変態だって、バレてしましますもんね！！

僕が立ち去ろうとしたとき、僕は再び肩をがっちりつかまれました。僕が振り向いたとき、そこに驚きの事実を突きつけられます！！！！

「これハ、お前の部屋ノ写真ダ。お前ノ部屋ニハ、エロチックな物がたくさんアツタ。これはナンダ？お前ハ、嘘をついているな？」  
「え？え？な、な、なんで、僕のコレクション達の写真を持ってるのさ！！？？」

## 序章『開始仕訳は突然に』5

・・・そう、この巨乳集団のリーダー格が持っていた写真は、まさしく、僕の大事な卑猥コレクション達がバッチリ写っていたのです！！

「なんで？なんでこんな写真もってんの！？」

僕は驚き、狼狽します。だって、あの部屋にはひとつこひとり、招いたことがないのですから！！

すると、リーダー格の男（僕はこいつをおヒゲさんと呼ぶことにします）が、不敵な笑みを浮かべて言いました。

「ワレワレを誰だと思ってイル。ワレワレ、ビックパイの民族にとつての深刻な状態ヲ抜け出す為ニハ、日本で一番スケベイな奴の力が必要だと言ったでアロウ。ワレワレは、民族をすくう為ナラ、ストーリーだって尾行だってお茶の子さいさいなのダ。さあ、お前の力を貸してモラオウか」

「ちょ、ちょ、ちょっと待ってください、おヒゲさん！」

僕の脳内は、ただいま脳みそ達がフル回転中。僕の身の上に何が起こっているのかを、必死で分析しているのです。僕がストーリーカーされた・・・だと？なんてこった！僕をストーリーカーしても良いのは、こんな変態巨乳オヤジではなく、綺麗なおねいさんだけなのに！！いや、今はそんなことはどうでも良いのです。僕の大切なコレクション達が一目にさらされた以上、これはただごとではないのでしょう。僕は、こいつらを抹消しなければなりません！！た、例え、少々法にひっかかるような手段を用いても！なぜなら・・・そう！僕が

変態だって事実を、この世にさらしてしまわないために！僕は、僕は爽やかでクールなイケメンとして、モテモテになりたいのです！さっきは、こいつらのせいで、学校の生徒達に危うく知られてしまいそうでしたが……。ふふ、こんなことで挫折する僕ではありません。見ててください、僕は、必ずレディー達の信用をとりもどしてみせます！

「おヒゲさん。僕はね、僕が変態だと知られちゃ困るんですよ。僕は、自分の人生に大きな希望を持っているのです。将来は、大きな家を建てて、巨乳でグラマーな美人を、10人、メイドとして雇うつもりです。そう。身の回りのお世話係としてね。そして、その子を毎晩、ふふ、ま、毎晩、あんなことやこんなことをするつもりなんですよ。そのためには、今はクールでカッコいいイメージを崩してはいけないのです。『僕の人生とかけて、お天気予報ときます、その心は「明日はハーレム（晴れむ）」！！桐島ツチです！！』って感じなんですよ。わかります？だから、僕はあなたたちを抹消しなくてはならない。その、ブックキーピング島とやらに、帰ってもらいますよ。覚悟してください！僕は、あなたたちを、二度と僕の周りに出遇しないために、策をこじめますか……。ら……。あ？あああああ！！そ、それ、返してください！！僕の一番の宝物！なんでもってるんですか！！」

僕のかっこいい宣戦布告のセリフが、なにかに遮られます！そう、ちょうどおヒゲさんの後ろに立っていた巨乳オヤジの集団の一人が、ちらつとなにかの雑誌を僕に見せたのです。それは、それはなんと、僕の一番の宝物！！マリアちゃんという、若干16歳のぴちぴちギヤルの写真集なのです！ひょんなことから、インターネットで発見し、即購入したという、僕が一番のお気に入りなのです。それを、このオヤジ集団は、僕の部屋から勝手に持ち出し、し、しかも、素

手で、汚い手で、それをつかんでいる!!

「もう怒った!! 僕のマリアちゃんを返せ!」

すると、おヒゲさんはまたも不敵な笑みを浮かべます。

「フフ。フフフフ。フフフフフ。引っかかったナ。坊主ヨ。マリアの写真集を持っているとイウことが、自分ガ日本中で一番スケベイだという証。何を隠そう、マリアは、ワタシの娘ダ。マリアの写真集は、この世二一冊しかナイノダ。そして、この写真集を手にいレル為ニハ、インターネットで『私は日本一の変態だ!!』という言葉で検索シナケレバならない。その言葉を検索するコトデシカ決して到達しないホームページ上でしか、販売していないノダ。そう、お前ハ自分を日本一のスケベイ人間だと認めた証拠。これにより、お前は、ワレワレの民族に協力する義務が与えラレタ。皆の者、コイツを誘拐し、すぐにワレワレの島に向かうノダ!!」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5236/>

---

BOOK KEEPING

2010年10月14日17時44分発行